

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

団 体 名	おたる鏡色アート実行委員会		
事 業 名	おたる鏡色アートプロジェクト		
実 施 期 間	令和7年6月～令和8年2月		
事業の目的及び期待する効果	<p>・オリジナルストーリーに沿った、小樽の建物や街並みを背景とした心情的写真を撮影しパネル展示、ギャラリートーク、ワークショップ、小樽の歴史分科会等を開催する。</p> <p>また、パネル展示などは入場無料で市民から観光の方、どんな方も観覧可能とする。</p> <p>小樽の歴史分科会にて、小樽の史実や歴史や遍歴などネットでは得られない情報や資料などを共有する。個人の思い出や多岐にわたる話しを人から人へリアルに伝搬することを大切に、得られた情報などを材料にオリジナルストーリーとスピノフストーリーや番外編、続編などを制作し、新たな登場人物などを追って写真撮影を行う。</p> <p>上記の2点を繰り返し行い、これまで小樽を好きだと思っている方の知見を深めてさらに多くの小樽魅力を多面的視点により共に創造し共有し、新たな参加者の輪を拡げていく。</p>		
実 施 額	事業費	324,700円	助成額 294,700円
事業内容	<p>①小樽歴史分科会 Vol.1 →小樽の歴史を深く考察する会</p> <p>②写真パネル展示＋ギャラリートーク →オリジナルストーリーに基づく写真パネル展示会</p> <p>③写真パネル展示＋文章ワークショップ →ストーリー理解増、二次展開のためのワークショップ開催</p> <p>④写真パネル展示＋小樽歴史分科会 Vol.2 →写真パネル展示、小樽の街並みを深く考察する会</p> <p>⑤文化交流会 →メンバー、市民、ボランティア、オブザーバー参加による文化交流会</p>		

○事業の内容が分かる「資料やチラシ等」がありましたら添付してください

◎事業の日程について

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
6/13	小樽歴史分科会 vol.1	20	60
7/25~27	小樽鏡色アート写真展示会	350	200
8/1~31、10/1 ~31	小樽鏡色アート写真展示会 哀、霧、仄、深	240	50
1/16~18	小樽鏡色アート写真展示会+小樽歴史分科会 vol.2	350	200
2/4	文化交流会	20	20

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

(前ページに記載した「事業の目的」を達成することができたかどうか、反省点等も含め具体的に記入すること)

・小樽歴史分科会 Vol.1 では、小樽の歴史の中でも深いテーマでの開催により、20名ほどの予想をはるかに超えて、約60名の参加があった。都通り商店街でのチラシの手配りや商店街に協力頂き、パネルでの資料展示、事前にお知らせの効果があったと考えている。

・写真展示会ではストーリーを追って市内で撮影をした写真の一部を展示。

海外からの旅行者が携帯の翻訳機能を使ってストーリーを読んでもらったことが印象的だった。

うしお祭りと同じ期間にしか美術館の空きがなく、この日程となったことで来場者があるのか心配だったが、祭りの間に来た方もあった。

メンバーからの提供資料なども手に取って見れる様に展示。関心を寄せて下さった方からのお話を伺うことが出来た。市民ひとりひとりに思い出話があり創作ストーリーを上回る楽しいお話しなど聞かせて頂いた。たいへん今後の活動の参考になった。やはり、多数の市民の参加がより活動を充実させると感じた。

・当活動の特徴でもある多角的に小樽の魅力を伝えていく中で、活動自体が新規事業であるため工夫して活動内容を伝えていくうえで、連動する内容を知ってもらう、興味を持ってもらう、参加したいと思ってもらえる工夫をさらに強化していきたいと思っている。

ストーリー登場人物のキャラクター化、などで多方面にアピールしていきたい。

2. 事業の効果（参加人数の面から）

(実績の参加人数は想定した人数の何パーセントだったか) ※実績数÷想定数で計算

53パーセント

(上記の割合となった理由や上記の割合に対する自己評価などを記入すること)

・これまでに無い新規の事業内容が唯一無二の内容であり、新しい小樽の魅力の切り口を模索しているなかで、具体的に事業内容や活動を理解して頂ける機会を出来るだけ多く会場の設定を行う努力をした。

・本会の事業内容、活動が会場に動員することだけでは無く、月間おたるへのオリジナルストーリー掲載やInstagramでの発信、ライブなど上記動員人数だけで事業内容の効果を図ることの出来ない未知数が含まれており、今後それらも含めて実践数字に反映出来るように努めていきたい。

3. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

(アンケートや聞き取り等によって把握した参加者の感想や反応を記入すること) ※別紙による提出も可

・小樽歴史分科会では、参加の皆様が小樽の歴史にもご関心があることがわかった。

楽しかったです、また参加したいですとのお声から、開催の時は知らせて欲しい等、嬉しいお声を頂きました。経費の枠のなかで、効果的にお知らせ出来るように努力していきたい。

また、旅行中の観光方にも知っていたら参加したかったとの関心のお声を頂き、SNSを通じて発信していくことも強化すると共に、他に策がないか考えていきたい。

・写真展示会では、ストーリーをじっくり読んで下さる方も多く、ストーリーをまとめた本を販売してほしいというお声も頂きました。また、撮影場所を知ると、あああの場所ねと改めて街並みの素敵な部分を再確認して頂けた様に思います。

ボランティアで参加したいという声かけもあり、スピンオフストーリーや別のストーリー展開を望む声も頂きました。

4. 今後の事業について

(1～3に記入した、事業の達成度・効果・満足度を踏まえ、来年度以降はどのような事業を行っていく予定か、記入すること)

・ストーリーを追う写真を撮り切れていないので、群来からお盆までの間に撮影に臨みたい。

写真とストーリーを平面的な見せ方だけでなく、会場で小さな字を読むことが困難な方にも楽しんで頂けるような映像紙芝居、読み聞かせのような形で工夫した展示を行いたい。

・小樽歴史分科会で小樽の歴史や謎を紐解いていく会を続行しつつ、跡地を巡る遠足会も開催したい。安全に考慮しつつ、徒歩で巡る会の具体的な企画考案を行いたいと考えています。

また、オリジナルストーリーの撮影場所を巡る様なマップの作成とストーリーを転用したカードゲーム化する等のさらなる発展展開に向けて準備、考案をする時間を立てていきたい。

・小樽のアーティスティックな魅力、再確認される歴史史実、から感じられる魅力を多くの方々に感じて頂ける様な挑戦を引き続き、市民、ボランティア、ご協力頂ける関係各所と連携しながら行っていきたい。